

# 港と人をつなぐ折り上げ屋根

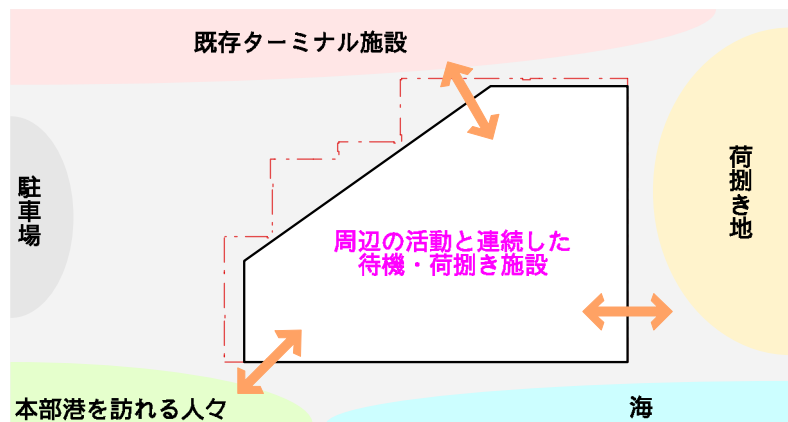


## ■コンセプト

本施設はフェリーの乗客が利用する **既存ターミナル施設** と隣接し、本部港を訪れる人々の玄関口となる場所に位置しており、乗客の待機や荷物の荷捌きスペースとしての役割を担っています。

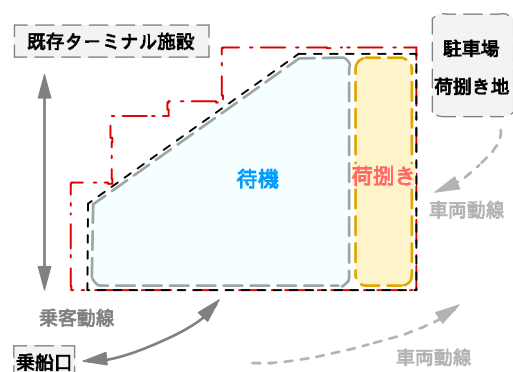
そこで、それぞれの活動とつながる「港と人の接点」となる空間にしたいと考え、それぞれの方向に向かって開くように屋根を折り上げた待機・荷捌き施設を提案します。

それぞれの場をつなぐ折り上げ屋根は、多方向からのアプローチを誘発するとともに、一つ屋根の下に明るく活気のある新たな本部港の風景を創り出します。



## ■ゾーニング

待機スペースと荷捌きスペースを明快に分けて、わかりやすく管理のしやすい構成とします。



### 待機スペース

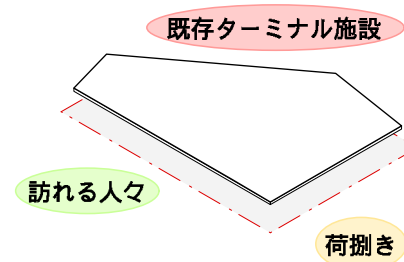
乗客の動線を考慮しフェリー乗船口側にゾーニングします。また、天井高をフォークリフトでのコンテナの出し入れに必要な3.7mとすることで、荷捌きスペースとしても利用できます。

### 荷捌きスペース

荷捌きスペースは車両動線と近く敷地が開けた既存荷捌き地と隣接させるようにゾーニングすることで、車両やフォークリフトでの荷物の運搬や荷捌き作業をしやすくします。

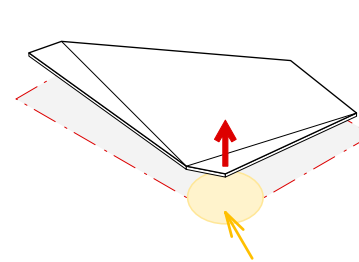
## ■ダイアグラム

### 01 大屋根をかける



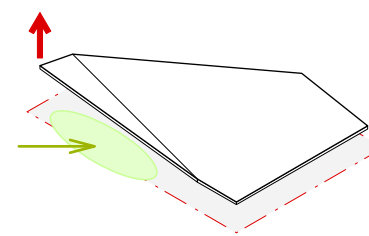
それぞれの活動の接点となる位置に大屋根をかけます。

### 03 荷捌きスペースを開く



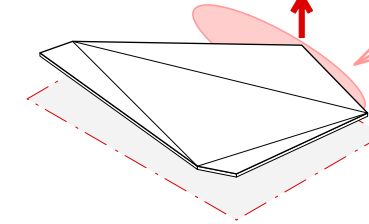
荷捌きスペースを屋外に開くように海側の屋根を折り上げます。

### 02 人々を迎え入れる



本部港を訪れた人々を迎え入れるようにアプローチ側の屋根を折り上げます。

### 04 既存施設とつながる



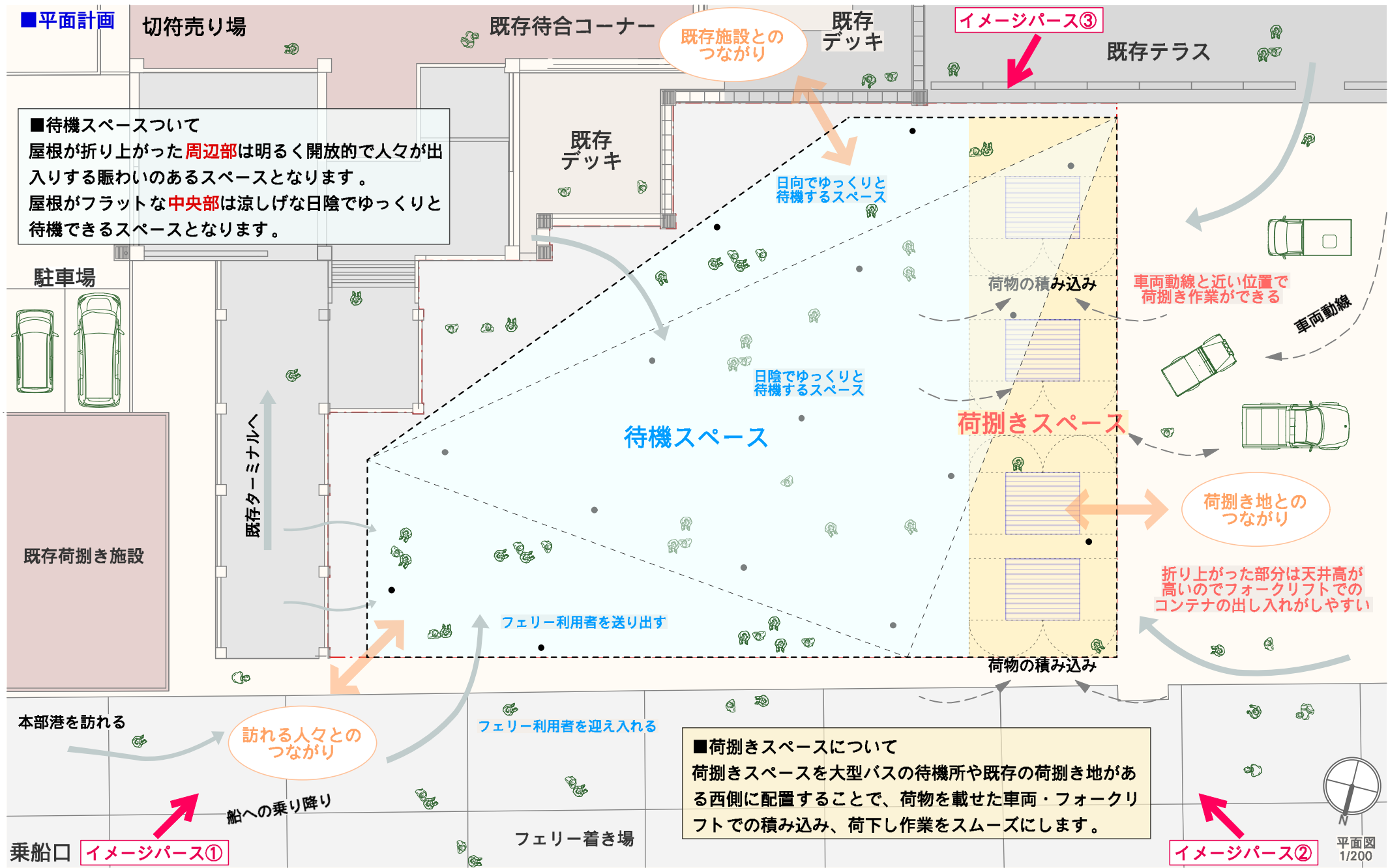
隣接する既存施設ともつながるようにターミナル側の屋根を折り上げます。



フェリーからみる

3つの方向に折り上がった屋根が、多方向からのアプローチを誘発しながら周囲の活動を軒下空間につなげます。





**イメージバス③** 既存ターミナル施設側からみる  
 既存ターミナル施設の屋根を折り上げることで多方向に開かれ裏側のない建築になり周囲と多様な関係をつくります。

**■賑わいをつくる軒下空間**  
 軒下空間が所々高くなることでアプローチや周りの活動に開き、明るく賑わいのある待機・荷捌き施設をつくります。  
 軒下空間は周囲の屋外空間とつながりながらそれぞれの活動をひとつにまとめます。  
 3つの方向に折りが上がった屋根は、本部港を訪れる人、フェリーを待つ人、見送りに来た人、本部の美しい風景を望む人、荷捌き作業を行う人など、それぞれに快適な空間を形成し、活気のある本部港の風景を創り出します。

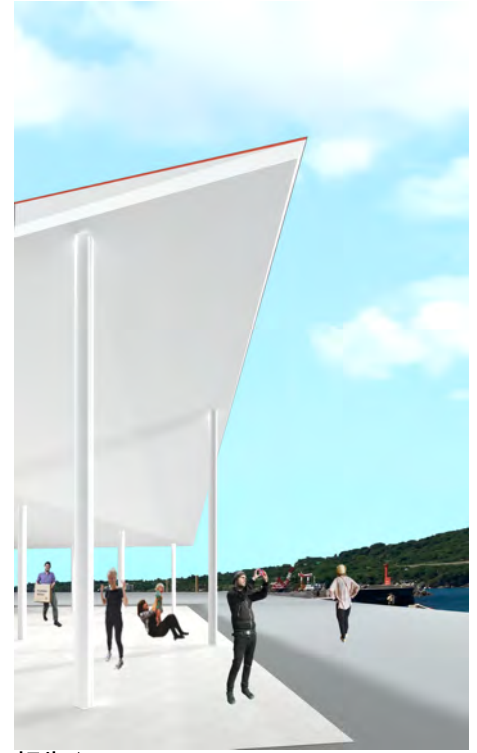
**■構造・仕上**  
**■構造について**  
 構造は鉄骨造とし、グリッド状に配置された丸鋼柱が折り上げ屋根を支えるというシンプルな構成にすることで、眺望を遮ることなくフレキシブルに利用できる軒下空間を作り出します。また、屋根は中央のフラットな部分は二等辺三角形のかたちとし、施工性に配慮します。  
**■仕上げについて**  
 屋根は赤茶色のカラーガルバリウム鋼板で葺き、周囲の建物との調和を図りながらも印象的な外観とします。  
 床はフラットな土間コンクリート仕上げとし、フォークリフトでの運搬や荷捌き作業をしやすくするとともに、周囲の地面と一体としてつなげます。  
 柱や軒裏は鋼材に塗装仕上とし、反射性を持たせることで、軒下空間での人の動きや自然光を微かに映し出し、明るく柔らかな空間とします。



**イメージバス①** 乗船口側からみる  
 明るく開放的なエントランスとして、本部港を訪れた人々を迎え入れるとともに、フェリーに乗るため乗船口に向かう人々を送り出します。



**イメージバス②** 海側からみる  
 荷捌きスペースの屋根を折り上げることで、天井高が高くなり、フォークリフトでのコンテナの出し入れしやすさや荷捌き作業をしやすくします。



**軒先をみる**  
 それぞれの活動が軒下空間を介して周囲の屋外と一体となり、本部港に新たな活気ある風景を創り出します。

**■建築概要**  
 構造 : 鉄骨造 有効床面積  
 最高高さ : .6.5m 待機スペース : 397㎡  
 庇下面積 : 528㎡ 荷捌きスペース : 131㎡